

学術情報流通の変容と 今後の大学図書館のあり方

慶應義塾大学文学部
倉田敬子

1

大学を巡る環境変化 背景

背景

「大学」そのものへの問い直し

・少子化 ➡ 大学入学割合の増加

大学に求めるものが変化

・研究環境の変化

最高の技術環境を提供しているのか

「アカデミックな世界」の変容

2

大学図書館の機能

大学図書館の理念

大学における

「教育研究活動」の「支援」



基本的に変化なし

3

図書館というシステム1

1 情報リソースの管理

必要とされる情報源の収集、組織化、
提供、保存

2 利用者サービス

提供している情報源へのアクセス確保

4

図書館というシステム2

図書館の目的

情報源 と 利用者 をつなぐこと



情報源のあり方が変容している



図書館の機能を実現させるための
手段の変化

5

学術情報流通の変容

- 1 学術情報の電子化
公的な情報源：印刷物から電子メディアへ
＜情報の利用、成果の発表、教育方法＞
- 2 学術研究活動そのものの変化
e-Research 電子化が前提

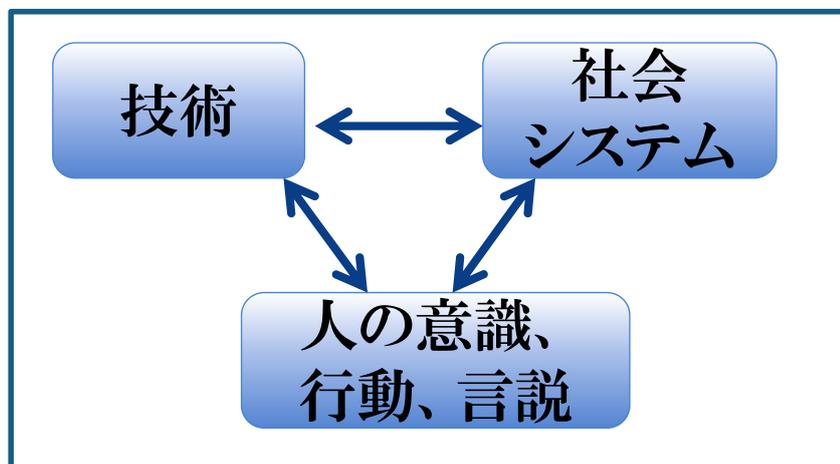


電子化

6

情報メディアとは

* 情報を伝達する「社会的な場」



7

電子ジャーナル(例示として) 技術 1

電子ジャーナル実現への沿革

印刷プロセスの電子化開始は古い

電子製版、ワープロ編集は1960年代から



課題① 表示:数式や図表

課題② 多数の利用者の利用環境整備
同時多数アクセスを可能にする
ネットワーク環境が必要

8

電子ジャーナルの技術2

電子ジャーナルの技術的目標

印刷物と同じ品質の雑誌の実現

＜印刷物の再現＞

課題①表示

➡ PDFの普及

課題②利用環境

➡ インターネットの普及(利用)

9

EJを実現する社会システム1

1 出版、刊行システム

既存の出版社が編集、刊行体制維持

印刷版と電子版の併存

- 国際商業出版社 洗練されたプラットフォーム
出版社の吸収合併、寡占化
- 学会 中小規模学会の協同出版など

規模の効率性

10

EJを実現する社会システム2

大学図書館が学術情報流通に果たした役割

* 印刷版学術雑誌

多数のタイトルの確保<雑誌の選別>

組織化・検索<データ作成含む>

提供、保管<書庫管理>



* 電子ジャーナルへ

11

EJを実現する社会システム3

* 電子ジャーナル

すべての情報を出版社が保持

提供, 所在情報, 保管の機能果たせない



利用契約の窓口

• コンソーシアム

• Big Deal

導入に大きな力
<新しい仕組み>

12

電子ジャーナルの利用者1

* 著者として

学術雑誌の査読制変化なし

➡ 評価機能変化なし

* 読者として

PDFをダウンロードして紙で読む

図書館でのコピー ➡ 研究室で印刷

13

電子ジャーナルの利用者2

* 電子ジャーナルの急激な普及

2005年(本格導入から約10年)で

6~9割が週1回以上利用



印刷版学術雑誌の利用

既に図書館に依存

ほとんど変化がないからこそ普及した

14

新しい電子ジャーナル

- * Supplementary

印刷版にない情報の提示

- * エルゼビア社の「未来の論文」

2009年提案、2010年開始 雑誌 *Cell*

2011年6月 7分野プロトタイプ

<http://www.articleofthefuture.com/>

15

オープンアクセスとは

- * 定義

「学術雑誌論文無料アクセスの保障」

- * 理念

「知識は共有されるべきもの」

図書館：万人へのアクセス保障

学術情報流通：ギフトの円環

➡ 商業主義への反発

16

オープンアクセスの現状

* 主流とはいえない

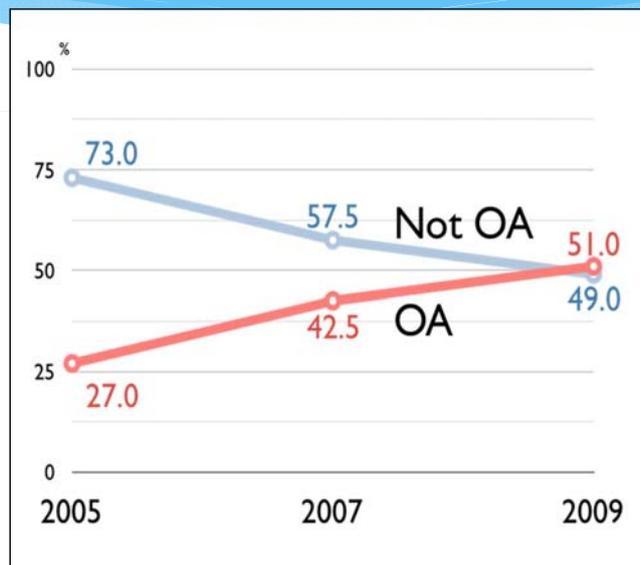
OAの割合

• 全体の2割？

• 医学分野

2005～2009年

調査結果 →



Keiko Kurata, Mamiko Matsubayashi, Shinji Mine, Keiko Yokoi, Tomoko Morioka. Enhancing open access in the biomedical field. ASIS&T 2010 Annual Meeting poster. 17

オープンアクセスの意義

* 学術情報流通の電子化



既存出版社による電子ジャーナル<主流>



オープンアクセスによる新しい試み

機関リポジトリもプラットフォームの一種

e-Research

* 研究活動の新しい特徴

① 共同研究の推進

→ 学際性, 国際性

② データ中心の科学(根拠の明示)

→ データの共有
データマネジメント

③ 大規模サイエンスから人文社会科学へ

19

大学図書館の将来像1

* 印刷物中心の図書館

印刷物の提供と保管に特化



継続する期間と範囲をどう考えるか

組織と人員は縮小化

20

大学図書館の将来像2

* 学習支援センター

- ① 高度な情報リテラシー教育
図書館員が教師
- ② 教材作成
教員との協同・連携, 配布・販売
- ③ 学習支援
空間デザイン, チュートリアル, 人的サービス

21

大学図書館の将来像3

* 知の基盤構築

- ① 大学で生産されるコンテンツのための
電子的プラットフォーム
共通基盤の開発、利用支援
成果、データ等の統合的管理、処理
- ② 他の大学間、国レベルでの協同

22

必要とされる人材

- * 従来の「図書館員」の枠ではない
- * 大学および大学図書館の目標〈戦略〉
多様な目標, 多様な計画
- * 図書館員としての共通基盤はありえるのか？